

平成18年3月期

中間決算説明会にあたって

大日本住友製薬株式会社
代表取締役社長 宮武 健次郎

平成17年11月9日

平成18年3月期 中間決算の概要 (連結)

金額単位: 億円

	前中間期		当中間期			前同比%
	実績	当初業績 予想 ^{5/16}	修正業績 予想 ^{9/29}	実績		
売上高	802	820	840	847	105.6	
営業利益	(5.2) 42	40	81	(10.6) 90	213.8	
経常利益	(5.4) 43	39	77	(10.0) 85	195.5	
当期純利益	(3.3) 26	7	34	(4.7) 40	151.6	

()は売上高に対する当該利益率%

平成18年3月期 通期業績予想 (連結)

金額単位：億円

	前期通期		当期通期		前同比%
	実績	当初業績 予想 ^{5/16}	修正業績 予想 ^{11/8}		
売上高	1,739	2,440	2,450	140.9	
営業利益	(6.0) 104	205	(9.1) 223	214.5	
経常利益	(6.4) 112	195	(8.6) 210	187.7	
当期純利益	(4.0) 69	101	(4.5) 110	158.9	

()は売上高に対する当該利益率%

国内営業体制

- 22支店 54営業所 の拠点体制
- 1500名を超えるMRによる全国フルカバー
 - 当面(2006年3月まで)は1施設2MRの重複配置、きめ細かな訪問・引継ぎを行う
- CNSグループの設置
- 成長ホルモン営業部の設置
- 全国8ブロックにサポートグループを設置
- 全国にインストラクターを配置
- 全国にエリアマーケティング担当を配置

主力4製品への集中化戦略

■ アムロジン

- EBMによる情報活動強化、糖尿病領域とのシナジー

■ ガスモチン

- 機能的胃腸症(FD)の認知活動強化、開業医での採用軒数アップ
- FDに対する大規模臨床試験JMMSの良好な中間結果の発表

■ プロレナール

- 専門医面談回数アップ、診断サポートツールの活用

■ メロペン

- 病院市場での複数担当制・病院専任制によるカバー率アップ

プロジェクト制

全社ポートフォリオの最適化
事業価値の最大化

資源の有効活用
プロジェクトの優先順位

プロジェクト制

事業活動を全社として部門横断的に推進するための仕組み

- ▶ 部門間連携強化による
プロジェクト推進の迅速化
- ▶ 情報の共有化
- ▶ 人材の育成

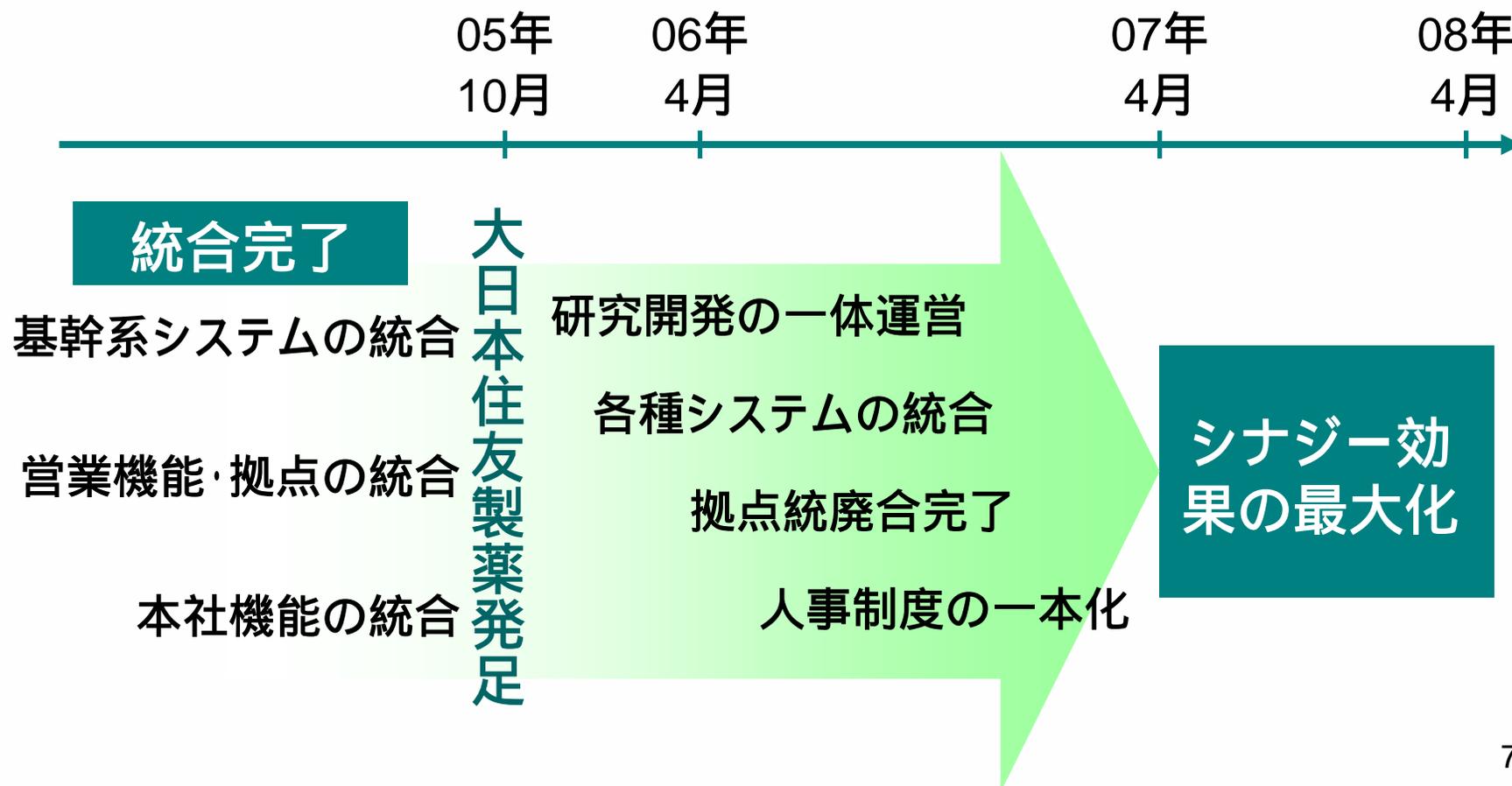
プロジェクト対象：前臨床品目、臨床開発品目、マーケティング品目

平成18年3月期の主要トピックス

- 統合失調症治療剤「SM-13496(一般名:ルラシドン)」の米国メルク社(Merck & Co., Inc.)への導出
 - 日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における開発・販売権を付与
- 糖尿病合併症治療剤「AS-3201」のエーザイ株式会社への導出
 - 日本を除く全世界における開発・製造・販売権を付与
- 糖尿病治療剤「セイブル」の三和化学とのコ・プロモーション
 - 10月11日承認、2006年1月上市予定
 - 糖尿病領域の基盤強化
- 「エバステルOD錠」(口腔内崩壊錠)の新発売
 - 発売当初(本年7月)より両社(旧大日本・旧住友)でコ・プロモーションを実施
- 多機能モニター心電計「レーダーサーク」の新発売
 - 本年12月発売予定

スムーズな統合スタート

- 07年3月末までに全ての統合を完了し、07年4月からシナジー効果の最大化を目指す



将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する各数値は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。